



第2回 神居古潭からカムイの大地
広域ジオパークの魅力観察会

< 神居古潭峡谷エリア >

嵐山公園・神居町忠和地区

- 1) 神居古潭変成岩帯の岩石
- 2) 岩石や地形とアイヌ語地名や伝説
- 3) 近文山と蛇紋岩・嵐山からの眺望
- 4) 蛇紋岩地帯の植物
- 5) 神居古潭峡谷と上川開拓の歴史



ノチウ(流星) 神居町忠和(石狩川中州)

平成27年9月19日(土)

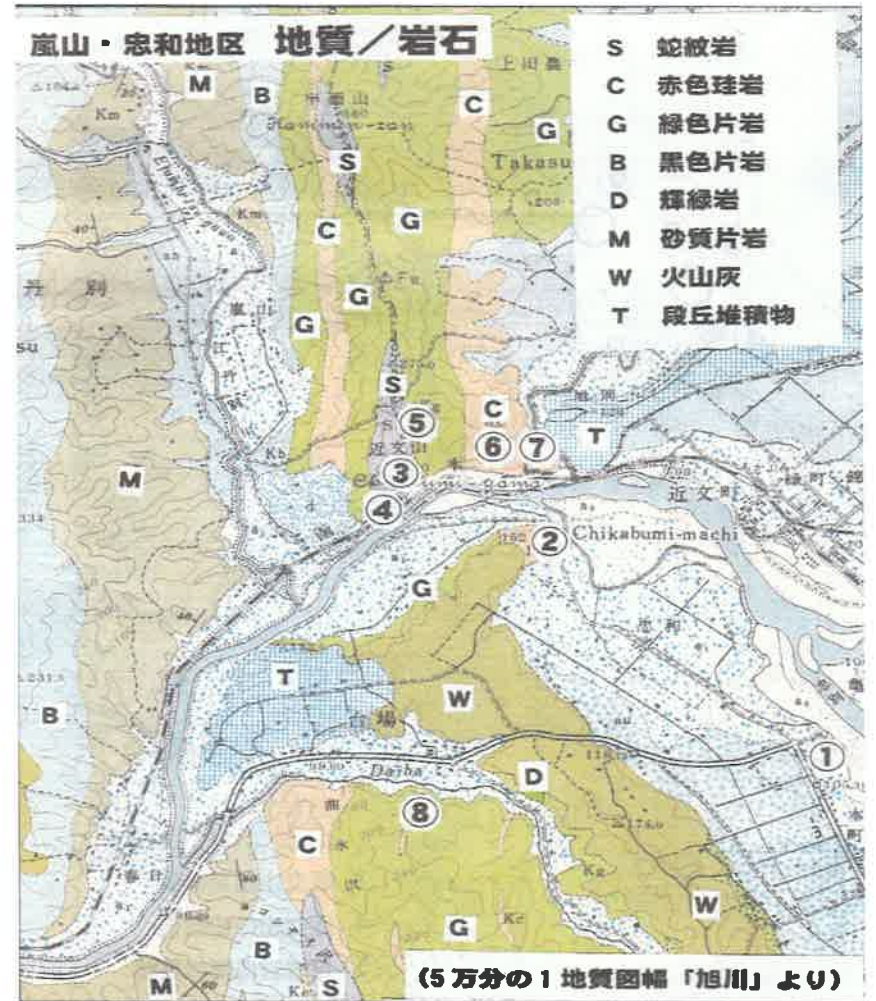
あさひかわジオパークの会

< も く じ >

神居古潭峡谷エリア(嵐山公園・神居町忠和地区)

- 1 忠別太駅通第一美英舎(旭川市指定文化財)
- 2 立岩・底無し沼の地名・伝説と赤色珪岩
- 3 近文山「国見の碑」(旭川市指定文化財)
- 4 近文山の蛇紋岩
- 5 蛇紋岩地帯の植物
- 6 嵐山と嵐山からの眺望(旭川八景)
- 7 クーチンコロ頭影碑
- 8 伊野川沿いの枕状溶岩
- 9 嵐山・忠和地区の地質・岩石
- 嵐山・忠和地区の観察ルート図

9 嵐山公園・忠和地区の地質や岩石



8 伊野川沿いの枕状溶岩(まくらじょうようがん)

およそ1億年前、海底にあった時代、流れ出た溶岩が固まった岩石が神居町台場や伊野川沿いに見られます。この岩石は、水中に流れ出た溶岩が急冷して、楕円形・丸みを帯びた枕状の塊になりたくさん積み重なったものです。これを枕状溶岩といいます。

この岩石の色は暗緑色、1つの塊の大きさは15cm~1mで、伊野川の上流に向かうにつれ形が大きくなります。1つ1つの塊は緻密なガラス質の表皮でおおわれ、塊の中心から放射状に割れ目ができる特徴があります。

この岩石は移動してきた海洋プレートが陸側に押しつられた「付加体」の一部です。



伊野川富沢橋付近の枕状溶岩
(掘削により、現在一部残る)

1 忠別太駅通第一美英舎 (旭川市指定文化財)

～上川郡農作試験所事務所棟～

明治19年(1886年)、岩見沢から忠別太(石狩川と忠別川の合流付近)まで、初めて道路が開削されます。そこで、上川を開拓するに当たりどんな農作物が育つか確かめるため、この忠別太に農作試験所事務所が建てられます。農作試験所では2ヘクタールの畑が開墾され作物は札幌よりも豊作であったそうです。

明治20年、この事務所は道路改修工事のため樺戸監獄署派出所に、翌年には旅行者の宿舎と一室が測候所に使用されます。

明治22年から、岩見沢から忠別太の間に駅通が5つ設けられこの事務所棟は駅通「忠別太第一美英舎」として使用されます。

上川開拓の起点として重要な建造物であることから、昭和41市の指定文化財に、同63年に復元されました。



旭川市指定文化財 「忠別太第一美英舎」

2 立岩（刀食岩）・底無し沼の伝説と赤色珪岩

昔、あるアイヌの家に代々伝わる二振りの刀がありました。この刀は勝手に人を殺傷する悪い癖があり、家人が何処に捨てても、いつの間にか家に戻り同じ悪さを繰り返しました。

家人が困り果て神に祈ると「底無し沼に捨てよ」とのお告げがあり、その通りにすると災いがなくなりました。後に、沼のほとりに刀の形をした岩が2つ現れ立岩と呼ばれます。

立岩の岩質は赤色珪岩で深海底に堆積したプランクトン（珪質の殻をもつ放散虫）の地層（チャート）が変成したものです。この岩石は移動してきた海洋プレートが陸側に押しつられた「付加体」の一部です。神居古潭変成岩帯の東側に広く分布し、嵐山山頂、石狩川中州の岩「ノチウ」（流星）なども同じ岩石です。



立岩（刀食岩）
「イペタムシユマ」
（神居町忠和）

7 クーチンコロの顕彰碑

江戸時代から明治時代の初めに、上川アイヌの首長としてアイヌ人の誇りを持って生きた人物です。彼は日高地方の沙流に生まれ上川へ移住してきた人と言われています。

石狩場所の乙名（おつな）に任命されアイヌの人を取りまとめ、また、北海道へ探検に来た和人の案内人として活躍します。案内した和人には、松田市太郎（石狩川、忠別川の水源調査）、松浦武四郎（上川を始め全道の山川地理、新道を切り開く調査）などがおります。松浦の日記は神居古潭でクーチンコロがチョウザメ、イトウを銚で捕らえたと記録しています。

明治の初め、石狩の役所が上川アイヌを石狩へ移転させようとしたところ、クーチンコロ他3名が役所に談判（チャランケ）して、移転を凍結させたとの逸話もあります。

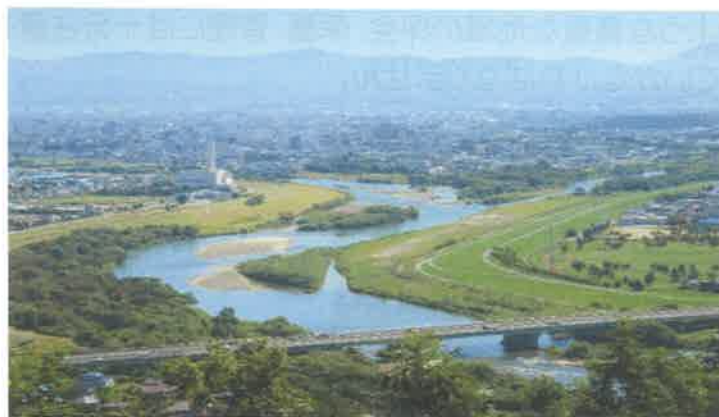


クーチンコロ顕彰碑
（北邦野草園入り口）

6 嵐山と嵐山からの眺望 (旭川八景)

明治21年、陸軍中将・小沢武雄が登頂し、頂上からの眺めが京都の嵐山に似ていることから「嵐山」と名付けたとされます。嵐山の展望台から上川盆地、大雪・十勝火山群の山々が一望でき、都市の中を蛇行し流れる河川、緑豊かな大地などの眺望は「旭川八景」に選ばれています。

嵐山を含む嵐山公園は、旭川市と鷹栖町にまたがる自然公園で数多くの動植物が生息する貴重な環境が残されています。特に、北方系野草の集成群として国内唯一の北邦野草園さらに、公園内にクーチンコロ顕彰碑、アイヌの人のチセ(笹小屋)があります。



旭川八景「嵐山からの眺望」

3 近文山「国見の碑」 (旭川市指定文化財)

明治18年(1885年)、後の初代北海道庁長官となる岩村通俊、屯田本部長の永山武四郎らが近文山に登り、上川原野を一望し、この地を開拓する決意を新たにされたと言われます。

そこで、明治19年(1886年)、ここに「国見の碑」を建立します。この石碑は、上川地方最初のもので、昭和41年(1966年)、開拓の始まりを記念する石碑として旭川市が文化財に指定しました。

近文(チカプニ)はアイヌ語地名から由来し、「鳥のいるところ」、鳥は鷹を指すといわれています。



旭川市指定文化財「国見の碑」(近文山)

4 近文山の蛇紋岩(じゃもんがん)

立岩から道々に出ると、石狩川の対岸に低い山並みとその下に黒い崖が見えます。この崖は、神居古潭変成岩帯を象徴する蛇紋岩の露頭です。蛇紋岩は含まれる鉄分などが酸化し黒ずんで見え、水などの影響で崩れやすい性質があります。

この崖の東側の高い所が近文山です。近文山の山頂から国見峠に続く尾根一帯が蛇紋岩です。尾根の東側は、緑色片岩帯でより浸食されやすく谷間になっています。また、その東側の嵐山は堅い赤色珪岩帯で小高い山になります。

この尾根に沿って歩くと蛇紋岩地帯に特有の植物がみられます。



近文山の蛇紋岩の崖(手前はサイクリングロード)

5 蛇紋岩地帯の植物

嵐山(253m)の近文山から半面山に至る地域は、神居古潭帯の蛇紋岩からなっております。蛇紋岩地はカリウム、カルシウムが少ない貧栄養土壌です。一方、過剰に摂取すると有害なマグネシウム、ニッケルが多く含まれております。その上、アルカリ性傾向となっており、植物の生育には適さない地域で土壌の発達も悪く、このような環境が植物の分布や分化に大きな影響を及ぼしております。

嵐山の蛇紋岩地帯には、化学的、物理的に特殊な環境に適応、分化した蛇紋岩植物や極めて限られた狭い地域に生育する植物など多様性に富んだ植物群が分布しています。更に、地史的な影響を受けた植物が分布し、特異な植物相、植生となっています。

このような貴重な地域の保全、保護、管理には十分注意をはらっていかねばなりません。



近文山のカシワの純林